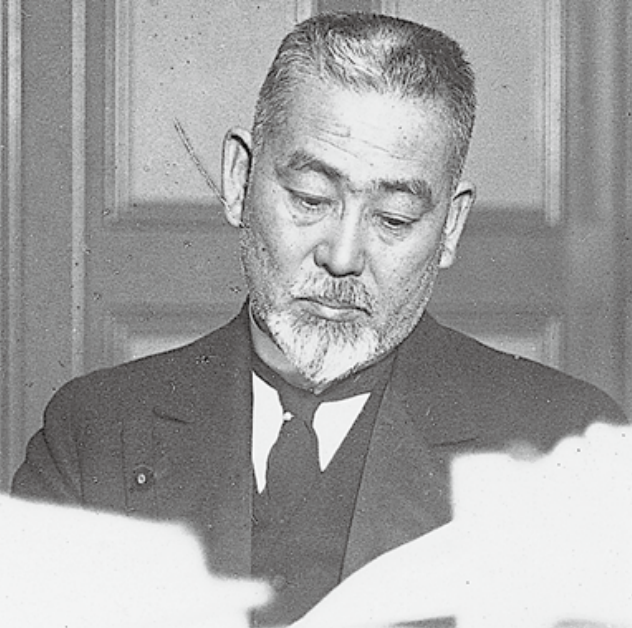


震災復興

後藤新平の120日

都市は市民がつくるもの

後藤新平研究会編



■一九二三年九月一日、政権の空白期に起こった関東大震災。一夜が明け、後藤新平は山本権兵衛首相のもとを訪れた。この一大危機に対処するべく、保留していた内相就任の受諾を伝えたのだ。

■九月二日の親任式の夜、後藤は「帝都復興根本策」を練る。四日に「帝都復興の議」を立案、六日の閣議に提出した。

■なぜ後藤は驚くべき速さで「帝都復興計画」を立案し未曾有の災害から東京を復興させることができたのか？ また、その根本思想とはどのようなものか？

■震災発生からの後藤新平の一二〇日を証言と記録により丹念に跡づける。

そのとき、後藤はどうしたか？

二〇一一年七月刊

A5並製・予二五〇頁

定価 予二〇〇〇円＋税

図版・資料多数収録

藤原書店

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523

電話 03-5272-0301 / F A X 03-5272-0450

E-mail info@fujiwawra-shoten.co.jp *価格は税込定価

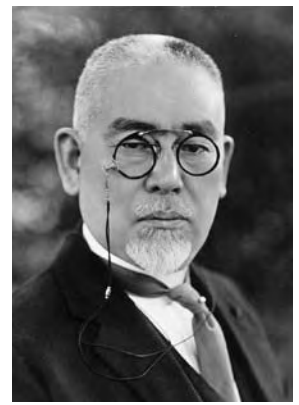
後藤新平 (ことう・しんぺい / 1857-1929)

水沢藩（現・岩手県奥州市）の医家に生まれる。藩校で学ぼうち、赴任してきた名知事・安場保和に見出される。福島須賀川医学校で学び、76年愛知県病院に赴任。弱冠23歳で同病院長兼愛知医学校長に。板垣退助の岐阜遭難事件に駆けつけ名を馳せる。83年内務省衛生局技師、ドイツ留学後同局長。相馬事件に連座し衛生局を辞すも、陸軍検疫部にて日清戦争帰還兵の検疫に手腕を発揮し、衛生局長に復す。

1898年、総督児玉源太郎のもと台湾民政局長（後に民政長官）に抜擢、9年にわたり台湾近代化に努める。1906年、満鉄初代総裁に就任、2年に満たない在任中に満洲経営の基礎を築く。08年より第二次・第三次桂太郎内閣の通相。鉄道院総裁・拓殖局副総裁を兼ねた。16年、寺内正毅内閣の内相、ついで外相としてシベリア出兵を主張。1920年、東京市長となり腐敗した市政の刷新を唱導。首都東京の都市計画を構想（東京改造8億円計画）。在任中の23年にはソ連極東代表のヨッフエを私的に招聘し、日ソ国交回復に尽力する。23年の関東大震災直後、第二次山本権兵衛内閣の内相兼帝都復興院総裁となり、大規模な復興計画を立案。

政界引退後も、東京放送局（現NHK）初代総裁、少年団（ボーイスカウト）総長を歴任、普通選挙制度の導入を受けて、在野の立場から「政治の倫理化」を訴え、全国を遊説した。また最晩年には、二度の脳溢血発作をおして敵寒のソ連を訪問、日ソ友好のためスターリンと会談した。

1929年、遊説に向かう途上の汽車のなかで三度目の発作に倒れる。京都で死去。



後藤新平 「帝都復興の議」

東京は帝国の首府であつて国家政治の中心、国民文化の淵源である。

したがつてその復興は、単に一都市の形態回復の問題ではなく実に帝国の発展、国民生活改善の根基を形成することにある。

されば今次の震災は帝都を焦土と化し、その惨害は言うに忍びないものがあるとはいへ、理想的帝都建設のために真に絶好の機会である。

この機に際し是非とも一大英断をもつて帝都建設の大策を確立しその実現を期するべきである。躊躇逡巡すればこの好機を逸して国家永遠の悔を残すことにならう。

〈目次〉

はじめに

1 プロローグ 山本「地震内閣」の成立と後藤の入閣

2 後藤新平「帝都復興の議」

3 帝都復興院と後藤のスタッフ人事

4 復興計画の策定

5 ビードの進言——都市は市民自らがつくるものである

6 帝都復興審議会

7 臨時議会

8 震災復興における後藤の役割

9 エピローグ 「復興事業ノ成敗ニ関シテ東京市民ニ告白ス」

〈収録〉「区画整理について市民諸君に告ぐ」／「後藤新平の幻の復興プラン」／「後藤子爵と東京の復興（ビード）」／「都市問題」後藤伯爵追悼号（寄稿と座談会）ほか
〈附〉「関東大震災復興プロセス」 「帝都復興事業図表」 ほか図版写真多数

山本権兵衛（首相）

火につつまれた地震の一夜が明けると、どこからともなく流言が伝わって来た。思う人を呼びにやっても、なかなか来ないし、又情報すらない。実に気が気でなかった処へ、来たのが後藤伯爵であった。

宮尾舜治（帝都復興院副総裁）

復旧復興は成立せしむべきものだ、という議論も起こって来た。起こって来たのではない、人心の帰向を定めるために後藤さんがリードせられたのである。此の力に依って復興も大成したのであります

佐野利器（建築局長）

後藤さんから来いということでした。伺ったところが建築局長を勤めるということでした。「なにをするのですか」と言ったところが「復旧などではなくて是からは復興だ。此の際何をするかということはソツチで考えろ、俺にわかるか」、斯ういうお話であった（笑）。

やはり偉人の言というものはグッと胸に響くものでありまして、此のお話を伺って私も「よし、一つ有らん限りの力を出して御勤めして見よう」という心持が起こって来たのであります。

井上準之助（蔵相）

私から申しますと、やはり何と言っても後藤子爵の考えであの復興計画は全部できたのであります。（…）東京の復興の基礎は全く後藤子爵の考えで出来ている、斯う言って誰方も異存を言われぬであろうと思ひます。

ご注文はFAXでお願いいたします FAX 03-5272-0450

藤原書店

東京都新宿区早稲田鶴巻町523 tel03-5272-0301 fax03-5272-0450 info@fujiwara-shoten.co.jp

番線印

震災復興・後藤新平の120日

——都市は市民がつくるもの——

()冊

ご担当者

■注文取扱条付

返品了解者：藤原書店・溝尻

A5並製 予250頁 ISBN4-89434-811-0 定価=予2000円+税